



まちの

達人

TATSUJIN

歌声ボランティア「ハーモニー」

代表 石川 たづ子

私の宝物

「皆様、こんにちはー！」

思いきり元気なあいさつで歌声ボランティア「ハーモニー」の活動は始まります。主に市内のデイサービスの施設を訪問し、会場の方と一緒に歌ったり、大型紙芝居や歌体操、フラダンスなども行っています。

「大好きな歌を通して人と触れあい、お役にたてたら…」そんな思いからハーモニーはスタートしました。今年8年目を迎えても、毎回反省することばかりですが、メンバー皆で悩み考え、支え合っています。

この、「支えられている」という思いは、私の主宰するドラマイフラワー教室「デュエット」でも同じことが言えます。花材

である自家栽培の草花や、木の実、つるの採取、ベースに到るまで、家族の協力なしでは到底考えられません。そして、「デュエット」に集ってくれる生徒の皆さんとのコミュニケーションこそが私の「ビタミン元気」なのです。

また、私たちが住む蒲郡のまちづくりを、まじめに前向きに考えている仲間もいます。

「蒲郡地域の茶の会」は、記録的な大雪の日に蒲郡で初めて「キャンドルナイト」を行いました。そのほかにも、ごみ減量啓発ビデオ、ならびに大型紙芝居制作などの活動を行っています。このような活動は、ひとりの主婦として、さらに、市民としての「協働のまちづくり」を学ぶきっかけを私に与えてくれました。

今、これらのどの場面を思い浮かべても、私はいつも誰かと一緒にいます。

私にとって、人とのつながりは本当に大切な宝物なのです。これからはずっと、こんなふうになんとふれあい、つながっていくことで、少しでも多くの事を学び、吸収したい！と思います。

水族館

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

「毎月いろんなことを書かれていますごいすね」とよく言われます。ほかに、ホームページの「スタッフ日誌」やメールマガジンの特別エッセイも書いているので、実は結構大変。

ネタに行き詰ると館内へ出てネタ探しをするのですが、そんなときは魚を見るより常連さんと話すほうが面白いし、書くことがすんなり決まります。年間パスポートができたので、以前より「お知り合い」は格段に増えました。

話しをするのはほとんど年輩の女性の方です。水族館は、博物館というよりどちらかというと美術館的なイメージなので、洋服に気を使ったり毎

タケスイ・エンジェルス

日化粧をする女性の方は、美的感覚に優れており、いつも鋭い意見を言ってくれます。先日、「館内音楽はオルゴールにしろ」とか、「この水槽の背面の色を変えろ」などのご意見をいただきました。

孫を連れられたおばあちゃんや子どもを連れられた主婦、それに小学生まで、結構数が多いこの常連女性たちは、名付けるなら「タケスイ・エンジェルス」。水族館にとって大切な存在です。後輩たちにも「常連女性客の意見は絶対聞いて展示に生かせ」と言っておりません。ただ、私はどうも子どもと年輩だけにモテる、という生感があり、未婚年代がないのは唯一悲しいところ。「館内では気軽に声をかけて」と常に言っています。が、本気で気軽に声をかけてくるのは年輩の女性だけです。

とは言っても、書くネタもできるし、話しをするのは楽しいので別にいいのですが。